

◆平成30年度 友の会 決算

〔平成30年4月1日～平成31年3月31日〕

(収入の部)

項目	決算額(円)	備考
会費	348,000	2,000円×174件
特別企画展収入	983,228	特別企画展(まど・みちおのうちゅう展、描かれた西郷どん展)のグッズ販売手数料収入など
雑入	4	預金利息
前年度繰越金	381,471	
合計	1,712,703	

(支出の部)

項目	決算額(円)	備考
入館料	79,500	会員券(400円×167人)66,800円、企画展招待券(10枚)5,000円、企画展招待券(11枚)7,700円
特別企画展関連経費	1,052,918	特別企画展(まど・みちおのうちゅう展、描かれた西郷どん展)のグッズ販売業務委託料等
自主・共催事業関連経費	20,000	朗読、朗読劇開催
会議費	2,738	お茶代
印刷費	74,736	友の会会報(年2回)印刷代
郵送料	87,467	切手、往復ハガキ、郵送料等
消耗品費等(需用費)	0	
予備費	0	
合計	1,317,359	

(収入の部)1,712,703円 - (支出の部)1,317,359円 = 395,344円 [次年度繰越額]

◆令和元年度 友の会 予算

〔平成31年4月1日～令和2年3月31日〕

(収入の部)

項目	予算額(円)	備考
会費	400,000	2,000円×200人
特別企画展収入	0	特別企画展なし
雑入	10	預金利息
前年度繰越金	395,344	
合計	795,354	

(支出の部)

項目	予算額(円)	備考
入館料	78,000	入館券38,000円、館外企画展40,000円
特別企画展関連経費	0	
自主・共催事業関連経費	0	
会議費	10,000	役員会お茶代等
印刷費	80,000	友の会会報等
郵送料	200,000	1,000円×200人
消耗品費等(需用費)	20,000	消耗品費
予備費	407,354	
合計	795,354	

(収入の部)795,354円 - (支出の部)795,354円 = 0円

北九州市立文学館

友の会会報

第9号

令和元年8月

小倉祇園太鼓四百年 歴史展にあわせ 総会と講演会

市立文学館友の会の令和元年度総会が七月十八日、文学館交流ステージであり、昨年度の事業報告と事業決算、新年度の事業計画と事業予算など六議案を承認しました。

総会には会員二十余人が出席。後藤みな子会長は、若者だけでなく中高年が文学書を読まなくなっていることに触れながら「文学館は人々に迎合するのではなく、真の文学とは何かを問いかけて人々を引き寄せる存在でなくてはいけない。力を尽くして文学館を支え一緒に走って

いきたい」とあいさつしました。来賓の今川英子館長は文学館が九月からリニューアル工事に入ることを報告。限られた予算の中で知恵を絞り、友の会の意見もいただきながら理想の文学館を目指して頑張っている。今後とも引き続きご理解とご支援を」と呼びかけました。



会長あいさつ

総会終了後は市立いのちのたび博物館学芸員の日比野利信さんに文学館で開催中の小倉祇園太鼓四〇〇周年行事 歴史展「四百年の鼓動」にちなんで「小倉祇園太鼓の歴史について」のテーマで講演いただきました。

小倉祇園太鼓で知られる小倉祇園祭は一六一七年、小倉藩主の細川忠興が祇園社(現在の八坂神社)を小倉、鑄物師町に建立したことに始まります。日比野さんは、「京都・宮津の出身で超一流の文人だった忠興が小倉に導入したのが祇園祭」と説明。当初は疫癘退散祈りというために馬借町が先導して「神山」を巡回したことに始まる祭りが、小笠原氏の時代になると各町内がさまざまな出し物を競う華やかな祭りへと発展していった様子を、各種の文献を紹介しながら解説しました。

馬借町に伝わる「八坂神社遷宮縁由記(一七九〇)に、鉦や鼓、笛の囃子方に江戸の山王神社の囃子方を参照したとの記



歴史展に展示されている1780年制作の最古の小倉祇園太鼓を解説する日比野さん(右端)

述があることも紹介。「京都由来の祭りに江戸のスタイルが加わり、明治以降は太鼓中心の祭りに変容する独自の発展をとげたのが小倉祇園祭」とまとめました。

講演には一般の聴講者も参加。終了後は日比野さんの解説で歴史展を見学しました。歴史展は八月十八日まで開かれません。(伊藤和人)



◎倉本聡

「森のささやきが聞こえますか 倉本聡の仕事と点描画展」の部では、脚本原稿や小道具のほか、ドラマ「北の国から」で実際に使用していた石の家のセットを展示し、五郎のシャンパーを着て写真撮影が出来るそうです。
(加賀美清之)

「友の会」の会員の皆様には、是非ご覧いただきたく、友の会会員証提示で入場料二二〇〇円が半額の六〇〇円で鑑賞できる優遇措置を講じています。皆様のご来場をお待ちしています。

倉本聡の代名詞は、テレビドラマ「北の国から」ですが、映画でも数々の名作を書いています。中でも、「冬の華」「駅 STATION」は忘れがたい作品です。前者は、ヤクザ、後者は警察官の対照的なキャラクターを高倉健が演じています。脚本家は、演じる役者を想定して人物像を造形しているのかわかりませんが、今となっては、ストイックで武骨な生き方しかできない男を演じられるのは、高倉健以外は考えられません。それは、倉本聡の生き方に通じるものがありそうです。倉本聡は、生涯現役なのでしょう。今、最新作のシニア世代向けのドラマ「やすらぎの刻〜道」が放映中です。その倉本聡の世界が、北海道から、ここ北九州にやってくる。

文学館 館外企画展
「倉本聡の仕事と点描画展」

日時：九月九日(月)〜十月二十日(日)
午前十時〜午後六時
場所：北九州市立美術館分館(リバーウォーク北九州)

「森のささやきが聞こえますか 倉本聡の仕事と点描画展」に合わせ、小倉昭和館では九月七日〜九月十三日の期間に倉本聡脚本映画を上映致します。上映作品は倉本聡さんご自身に選んで頂いた二作品です。「ブルークリスマス」は一九七八年真宝作品で、UFO(未確認飛行物体)と遭遇した人間の血が青くなり、そんな人間が増加したら世界はどうなるのか、その中で展開される人間の愛と苦悩を描くSF作品です。監督・岡本喜八、撮影・木村大作、出演・勝野洋、竹下景子、仲代達矢、八千草薫そして脚本が倉本聡となれば観ずにはられません。もう一作品は昭和館にとっても特別な作品、高倉健主演「冬の華」です。一九七八年東映作品、渡世の義理で殺した相手の娘を気にかけて、伯父だといつわり文通を続けながら彼女を見守りながらもまたヤクザの世界に戻らずにいられなくなる男の姿を高倉健が演じ、池部良、北大路欣也、池上季実子が脇を固めます。監督は健さんとの名コンビで知られる降旗康男、音楽はクロード・チャリが担当しています。同じ年に作られた二本の倉本聡脚本作品、何故この作品を倉本さんが選ばれたのか、ご覧頂き実感して下さい。
(小倉昭和館館主 樋口智巳)

「友の会」の会員の皆様には、是非ご覧いただきたく、友の会会員証提示で入場料二二〇〇円が半額の六〇〇円で鑑賞できる優遇措置を講じています。皆様のご来場をお待ちしています。

倉本聡の代名詞は、テレビドラマ「北の国から」ですが、映画でも数々の名作を書いています。中でも、「冬の華」「駅 STATION」は忘れがたい作品です。前者は、ヤクザ、後者は警察官の対照的なキャラクターを高倉健が演じています。脚本家は、演じる役者を想定して人物像を造形しているのかわかりませんが、今となっては、ストイックで武骨な生き方しかできない男を演じられるのは、高倉健以外は考えられません。それは、倉本聡の生き方に通じるものがありそうです。倉本聡は、生涯現役なのでしょう。今、最新作のシニア世代向けのドラマ「やすらぎの刻〜道」が放映中です。その倉本聡の世界が、北海道から、ここ北九州にやってくる。

映画と文学
「倉本聡の仕事と点描画展」
記念上映



◎東映



「ブルークリスマス」◎TOHO CO., LTD.

おすすめの本
『宿老・田中熊吉伝 鉄に挑んだ男の生涯』
佐木隆三著 文藝春秋社 二〇〇四年一〇月

作者は二〇〇六年から二〇一二年三月まで北九州市立文学館初代館長を務め、その後は名誉館長に。二〇一五年に七八歳で逝去される。一九五六年から勤務した八幡製鐵所を一九六四年に退社して上京し、作家活動に専念。一九七六年、「復讐するは我にあり」で直木賞受賞。

八幡製鐵所在職中に、宿老・田中熊吉に聞き書きしたものを社内報「くろがね」に連載しており、一九九九年に北九州市に戻ってからそれをベースとして『ひろは北九州』(北九州都市協会発行)に連載をする。それを基にして本書は書かれているが、宿老第一号の田中熊吉伝であると同時に八幡製鐵一代記でもある。両者に対する作者の並々ならぬ思い入れが伝わってくる。

田中熊吉は一九〇一(明治三四)年に二七歳で創業当初の八幡製鐵所に入社し、ドイツ人技師たちから溶鉱炉の作業を学ぶ。鉄づくりは自分の天職だと、困難に立ち向かう人であった。三〇歳の時、労働災害で左目を失明したが、心配する同僚に「そげんこつより、戦地のことを考えろ」(日露戦争中)と言いつつ人でもあった。また、三九歳でドイツ出張を命じられ、九月間ドイツの製鐵所で働いた彼は帰国して、技術協力の大切さを語り「まかり間違っても、ドイツと戦争をしちやならん」と言っている。あらゆるものは鉄に支えられていると確信する彼は「死ぬまで溶鉱炉で鉄づくりをしたかあ」と、鉄を愛する男であった。作者の熱い語り心が心に響く。

一方、本書には官営でスタートした八幡製鐵所をめぐる社会的状況が克明に描かれており、第一次世界大戦へと向かう世界の情勢も書き込まれている。実に緻密な取材がなされていることに心づかれた。

田中熊吉は一九六八年に九八歳で天寿を全うした。識見のすぐれた熟練工「宿老」に、彼の他六名が任命されていたが、皆先立っていたので、彼の死をもって宿老制度は終わりを告げた。

(三村保子)

リレー
エッセイ

佐木さんと歌った「八幡市歌」

西村 昭道

♪「天の時を得 地の利を占めしつ」佐木さんが突然立ち上がり歌い出した。横に座っていた私も思わず立ち上がり、♪「人の心の 和さえ加わり たちまち開けし 文化の都……」と、一緒に歌った。五、六十年振りのことであった。

新緑の五月になると毎年、呑み仲間四人連れ立って、風師山の中腹の「風林山房」を訪ねた。いつも遠く関門橋が霞んで見えた。佐木さんの体調は、年を追うごとに弱っているように感じた。その日は、焼酎を美味そうにチビリチビリやりながら、なぜか上機嫌であった。確か、亡くなる二、三年前の事である。

佐木さん（前北九州市立文学館館長で直木賞作家の佐木隆三さん）と私の共通項は、学校は違ったが中学と高校はともに旧八幡市である。高校まで、八幡製鐵所の東田溶鉱炉の煙突が真北に大きく見える市営アパートの最上階の四階に住んでいた。母から、洗濯物を干す時に「風向きは？」と、よく聞かれた。

大学の時、「現代資本主義と公害」（一九六八年・都留重人編・岩波書店）を読んでいたら、「八幡市歌」の二番の歌詞が引用されていた。♪「悠延々 波濤を焦がし 煙もうもり 天に漲る 天下の壯観 我が製鐵所 八幡 八幡 われらの八幡市 市の進展は われらの責務」まさに、「鉄は国家なり」そして「この天の虹」の「時代」であった。

四年前に、八幡を舞台にした著者の自伝的小説「八幡炎炎記」（二〇一五年、村田喜代子著・平凡社）を読んでいたら「八幡市歌」は、小学生にとって、「ちのりをしめつ」は時代劇映画の影響で「血糊をしめつ」となる「謎の歌」であるとあった。

昨年、続編の「火環」（二〇一八年、同）を読んでいたら、「八幡市歌」は小中学校の運動会の時に、合唱練習を飽きるほどやらされたことだった。著者とほぼ同年代だが、そのような気もするがよく憶えていない。同じように校歌の練習もやったはずだが、「八幡市歌」のように歌えない。私にとっては、いまだに不思議な歌である。

会員投稿

日本語教育、只今格闘中

社会福祉法人兼東園 岡部 多恵子

「鬼までが夜からアートの」格助詞九種類の覚え方で。私は、只今、四二〇時間の日本語教師養成講座で、外国人に日本語を教える基礎を学んでいます。格助詞など学校で習った記憶もなく、無意識に使っているわけですが、その意味・用法・例文を、七〇歳にして突然、頭に叩き込まなければならなくなりました。無理な話ですが、楽しんでいきます。

私の勤める社会福祉法人でも今年から新卒のネパール人介護福祉士二名を正職員採用し、スリランカ人一名をアルバイト採用しています。介護業界の人材不足は深刻で、人員配置基準を満たせない事業所は施設の一部閉鎖に追い込まれている程です。幸い私の法人では、少々余裕を持って職員を確保できていますが、日本人職員の負担を少しでも軽くするために、外国人職員を一日も早く、一人前に夜勤できるように育てなければなりません。外国人職員の成功の最短距離は日本語の読み書きとコミュニケーション・レベルを日本人並みに上げること。ご利用者の命はもちろんのこと、外国人職員を守る意味でも、日本語教育は欠かせないのです。

外国人を教える教師にとって、最難関は、敬語です。教師は、まず敬語の情緒的なイメージを払拭し、学校文法の発想を転換しなければなりません。「目上の人を立てるため」と言おうものなら「今まで座っていたのか」となります。自分の目の前にいるのに何故「目上」なのかになるわけです。「社長が・先生が」と補えれば、尊敬語。相手に対して「私が」と補えれば謙讓語。「参る・申す・おる・致す・存じる」の謙讓語と「です・ます・ございます」の丁寧語は聞き手への敬語。これでやると敬語を論理的に理解させることができるようになります。

更に教師にとっての難関は、発音学です。私たちは、外国語を学ぶ際に、ネイティブの発音に近づけようと外国人教師の発音をひたすら真似してきました。ところが、日本語教育においては、教師はまず外国人の間違った日本語の発音を真似するのです。間違いを確実に見極め、その間違った音が作られている舌の位置や、息を妨

害している方法と位置を判断できるようにするために、舌の位置はポッキーを使って確認します。これが楽しみです。

日本語教育は日本語の歴史から日本の移民政策に至るまで広範な分野に関わってきます。北九州市立文学館の「くずし字講座」で学んだ古文書の解説がここで役に立ちとうとは意外の喜びでした。

働くために随々とマラヤの麓から日本にやってきた介護職員に接するにつけ、上橋菜穂子さんの小説が頭を通ります。彼女たちがあの大自然の中から日本に来て良かったと思え、成功できるように、日本語をきちんと支援していきたいと願っています。

お知らせ

文学館展示リニューアルのため、九月から一時休館

文学館が出来て十二年経りましたが、その間、展示品の入れ替えはあつても、展示形態はほとんど変わっていませんでした。その間、文学に対する関心・意識の変化、閲覧方法の多様化（電子ブックの普及等）など文学に関する環境も大きく変化しました。また、北九州ゆかりの現役作家も増え、従来通りの展示では、これらの変化に対応するのが難しくなってきました。また、マンネリ化した展示では新鮮味もなく、従来からの文学愛好者だけでなく、新しい世代を文学館に向かわせる形態には、程遠いと言わざるを得ません。そこで、展示形態の抜本的な見直しが行われ、展示リニューアルをすることになりました。そのため、九月から来年の春までリニューアル工事が行われ、休館となります。

一階の常設展示部分の主な特徴は、年表による時系列的展示から、著名な文学者別の展示、ジャンル別の展示に改められるとともに、平成以降の現代作家も新たに加わるそうです。一階部分も入口の自動ドアが全面ガラス張りになり、明るく入りやすい雰囲気になること、トイレが快適になること、交流ステーションの鉄骨、仕切りがなくなり、開放的な空間となること、体験アイテムや体験コーナーが加わることなどが予定されています。

（加賀美清之）

